

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 平成24年10月26日(金)
16時～17時
ところ 農学部 DS304 講義室

題目

「花の見た目を考える—相称性と質感—」

講師

農学部准教授 鳴海貴子 博士

概略

花きの品質を決める上で重要な形質は、「花形、花色、草姿、香り、日持ち性」である。花の形は多種多様であり、様々な観点からいくつかのタイプに分けられる。花の全体的な形から分類される花の相称性はいくつかのパターンがあり、対称軸が複数ある放射相称性と1つしかない左右相称性、対称軸がない非相称性に分けられる。花の相称性に関与する転写因子として、左右相称花であるキンギョソウにおいてTCPファミリーに属するCYCLOIDEA (CYC) とDICHOTOMA (DICH)、MYBファミリーに属するRADIALIS (RAD)、DIVARICATA (DIV)などが報告されており、*cyc dich*二重変異体および*rad*変異体で放射相称花を示すことから相称性に関与する重要な転写因子として注目されている。今回、シロイヌナズナ由来*RAD-like*遺伝子を導入した形質転換トレニアを用いた研究やトレニア由来*CYC-like*遺伝子を用いた研究を紹介など、最近行っている研究を紹介する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)